

一斉学習 ■ 同時進行型

実践タイトル マインドマップを使って整理した学習内容を文章で表現

主に活用したICT機器・教材・コンテンツ等とそのねらい

PC
実物投影機

・作成したマインドマップを使って、学習内容を文章にまとめ、吟味する。

教員が用意した静止画
生徒のノート

・時代の背景、経過・影響のイメージを静止画によって理解させ、ノートによるフィードバックに応じた指導を行う。

参考にしてほしいポイント

- ・マインドマップなどのシンキング・ツールを活用することで、既知の知識と新しく得た知識の関連を整理できる。
- ・ノートを使った学習活動を展開することで、他の生徒がどう理解したかを「見て」、自分の考えに反映させることができる。

本時の展開(主な学習活動)

学習の流れ(分)	主な学習活動	ICT機器・教材、コンテンツ等
導入 0 5	※生徒は先行学習（予習的な家庭学習）を行っている状態。 ・学習課題「第一次世界大戦がおこった原因をわかりやすく伝えよう」の提示。	・先行学習プリント
展開 5 30	・グループ学習（4人班×8）によるマインドマップの作成。 ・発表する班（4人班×4）とそれを受ける班（4人班×4）による吟味。	・生徒が書いたマインドマップ（写真1）
まとめ 30 50	・教師による補足説明を聞くことで、理解の確認をする。 ・学習課題に対する答えを短い文章で記述する。	・自作PC教材「第一次世界大戦がおこった理由は何だろうか？」（プレゼンテーションソフトウェア）（写真2） ・生徒が書いた文章（写真3）

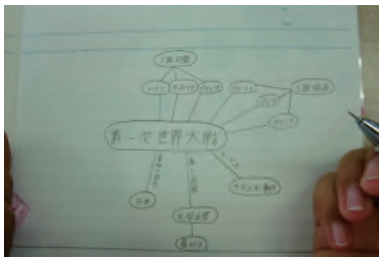


写真1：生徒のノート（説明をマインドマップの形でメモする）



写真2：プレゼンテーション教材による説明を聞く

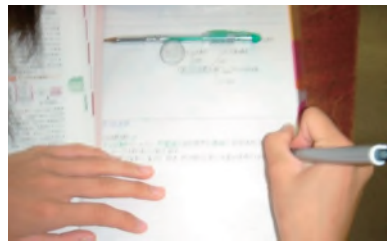


写真3：生徒のノート（マインドマップを文章に変換する）

ICT活用への児童生徒の反応等

- ・出来事や場所、国名とのつながりや関わりについて、お互いのノートを見ることで、自分の考えを深めることができた。

活用効果

評価の観点	・社会的な思考・判断・表現	具体的変容	・社会的事象を説明する際に、その原因（背景）、経過、結果（影響）を意識して文章を書くように心がけるようになった。
-------	---------------	-------	--

実践の手応え

- ・学習内容についての吟味をする場合、ノートを提示することで、何について、どう考えているのかを相手に伝えやすくなる。
- ・実物投影機によって、生徒の考えを即時に提示し共有することができる。
- ・実物投影機の撮影機能により、記録し、他のクラスで再利用することができる。